

環境関連学会・展示会等における環境技術実証事業の普及について

1. 基本方針

- (1) 展示会の方がよりPR効果が高いと考えられるため、展示会の出展を優先することとする。学会については特に有用と思料されるものについてのみ自発的に出展し、相手方から招待等された場合は検討する。
- (2) 展示会に関しては、計1件を対象とし、昨年度に引き続き実証機関や実証申請者と連携して出展し、実証済技術の実物も展示できるような体制ができないか、検討する。
- (3) 学会については、できる範囲で参加することとし、相手方次第では担当者を配置せず、ポスター・パネルのみ設置も行う。
- (4) 出展者名は、可能な限り環境省と実証運営機関の連名とする。
- (5) 出展先の選定のポイントは以下の4点を中心に検討し、PR効果が高いと見込まれるイベントを、上記(2)の件数で選定する。

<出展先選定のポイント>

- ① 関連する技術分野数
- ② 来場者数等(ETV事業に係る発表、ポスター等に関心を持つ見込みのある人数を把握できる場合にはそちらを重視)
- ③ 実証機関や実証申請者のコミットメントの程度
- ④ その他、期待される効果等(昨年度出展先で特に効果が高かったもの、昨年度の検討において有用性が示唆されたもの等)

2. 具体的な出展先(案)

学会及び展示会における具体的な出展先(案)を、それぞれ下表に示す。

表 平成 26 年度学会・展示会出展予定

名称 (主催)	活動概要等
<p>第 17 回日本水環境学会シンポジウム (日本水環境学会)</p>	<p>(開催期間) 2014 年 9 月 8 日 (月) ~10 日 (水) (場所) 滋賀県立大学 (選定理由) 関連する技術分野数が4分野あるとともに、例年環境省が特別セッションを設けており、関連技術分野の技術実証検討会座長より「事業の普及に向けて効果が高かった」との指摘をいただくなど、特に効果が高かったため。 (活動概要) ・環境省、実証機関及び実証申請者による実証事業のセッションでの口頭発表</p>
<p>International Conference of Asian Environment Chemistry 2014</p>	<p>(開催期間) 2014 年 11 月 24 日 (月) ~26 日 (水) (場所) バンコク (タイ) (選定理由) Organizer である日本環境化学会に招待されたため。 (活動概要) ・英語版のパネルを展示 (その他の詳細は未定)。</p>
<p>エコプロダクツ 2014 (産業環境管理協会、日本経済新聞社)</p>	<p>(開催期間) 2014 年 12 月 11 日 (木) ~13 日 (土) (場所) 東京ビックサイト (選定理由) 全技術分野に関連し、来場者数も多い(昨年度;169,076 名)とともに、実証機関・実証申請者のブース位置等の調整も比較的容易で、一定のコミットメントを図ることができるため。 (活動概要) ・実証運営機関、実証機関、実証申請者との共同出展によりブースを設置。 ・事業リーフレット、広報資料、実証申請者各種パンフレットの配布及び実証済技術のデモ機、デモビデオの設置。 ・環境省による事業概要のプレゼンテーション。</p>